

令和6年度 北海道小学校長会地区活性化支援事業【実践事例レポート】

- 1 報告地区：小樽地区
- 2 事例報告学校名：小樽市立張碓小学校
- 3 報告者職・氏名：校長 西山 誠一
- 4 キーワード：地域の教育力を生かした学校経営

1 はじめに

本校は、明治9年に開校し、今年度で148年目を迎える歴史ある学校である。小樽市内中心部より17km札幌市寄りの国道5号線沿いにあり、前方は海を望み、後方は豊かな森に囲まれ、恵まれた自然環境の中にある。

校下の張碓・春香両地区合わせた世帯数は約400世帯、人口はおおよそ900人である。張碓の自然環境を好んだ道内外からの移住者が多く、小規模校ながら児童数は微増している。今年度の全校児童数は53名、PTA世帯数は43世帯であり、複式学級1と単式学級4、特別支援学級2の計7学級である。

地域とのつながりがとても強く、地域の方々は学校への協力を惜しまないとともに、学校への期待も大きい。地域の教育力を生かしながら、多様な教育活動の展開と充実に努めている。



2 地域とともにある学校へ

(1) 地域を題材にした探究活動

総合的な学習の時間「あおばと学習」では、1学期に地域を題材にした探究活動を行っている。3年生以上の児童が縦割りで四つのグループに分かれ、それぞれで「学校の歴史」「張碓駅について」等の学習テーマを決めて活動する。活動に当たっては、実際に地域に足を運んで情報を集めたり、詳しい地域の方にインタビューしたりなど、様々である。各班の6年生がリーダーとなり、下級生に役割を分担したり、分からないことを教えてあげたりなど、縦割り班のよさが表れる活動となっている。

学習の集大成である「あおばと学習発表会」を地域公開としたところ、地域の方々が多数来校し、子どもの発表を温かく見ていただいた。

(2) 豊かな自然環境を教材に

生活科や理科の植物や生き物、地形等の学習については、豊かな地域の自然をそのまま教材として活用できる。右の写真は1年生がニホンザリガニを探しているところである。保護者の家のすぐそばの川であり、ザリガニの探し方をアドバイスしてもらった。子どもたちはザリガニを見つけて手に取り、大喜びであった。

また、6年生は理科の学習で、近隣の恵比須島周辺にある地層を見学した。迫力ある地層を現地で見たり触ったりすることで、子どもたちは自然の偉大さを肌で感じ、理解を深めることができた。

このように各学年で見学した地域素材等については、それをデータバンクとして保存することで、次年度以降にどの教員も活用できるようにしている。



地域の方の話「学校の歴史」



あおばと学習発表会



ザリガニを見つけよう



地層の見学

(3) 地域ボランティアの活用

今年度、教育活動に協力してもらい、「学校ボランティア」を募集した。その中で、図書ボランティアによる本の読み聞かせを定期的に行うことができた。数名の方がローテーションで全学級に入るため、子どもたちにとっては新鮮な気持ちで読み聞かせを楽しむことができています。

また、登校時に地域ボランティアの方が交通安全指導を行ってくださっている。長年子どもたちを見守り、関わりをもっていたり、子どもにとって安心できる存在である。学校運営協議会では、今年度、校区の安全マップの見直しを行い、新たに気付いた危険箇所等をボランティアと共有した。

今後、スキー学習の補助や家庭科の実習の補助等でボランティアを更に活用していく予定である。

(4) PTAの協力による体力向上の取組

平成30年に、体育館の壁にボルダリングの施設を設置した。毎年春に、PTA運動推進部が「ボルダリング教室」を開き、地域の方が講師となって基本的な登り方や安全指導を行ってくださっている。それを受けて、日常の体育の授業の準備運動として、全学年でボルダリングに取り組んでいる。マットの出入れや、子どもの安全を見守るため、普段の授業にも協力いただいているPTAもいる。

秋にはグラウンドで持久走記録会が行われる。学年に応じて決められた時間の中で、走った周数（距離）を記録する。周数を数えることなどはPTAの協力を得て取り組んでいる。競技は学年順に行われ、他学年の児童とPTAと一緒に大きな声援を送っている。

(5) 地域行事への参加

地域にある二つの神社では、それぞれで例大祭が行われる。共に地域住民が屋台を出したり、イベントを企画・運営したりしている。子どもも大人もみんなで盛り上がる、地域ならではの祭りとなっている。その他にも盆踊りやラジオ体操等の行事が各町会で行われ、子どもたちは積極的に参加している。高学年の児童は屋台の店番をしたり、ラジオ体操のスタンプを捺したりなどの役割が与えられ、地域の一員として行事に関わっている。

3 おわりに

前期の保護者アンケートに、「『子ども』を主語にして、『子どもがどうか』『子どもはどうか』を語り合える学校に、地域にしたいと心掛けております。」という回答があった。張碓の地域は、人が入れ替わっても地域行事を中心に伝統が引き継がれている。それは、各自が地域を担うこと、地域の宝である子どもを大切にしようとするなど、地域住民としての「当事者意識」の表れである。子どもたちはそれを感じ、ふるさとを愛する精神が育まれていると言える。

学校は、地域と目標を共有し、地域資源を最大限に生かした教育活動を行うとともに、地域との協働による取組を一層行っていきたい。未来の子どもたちの姿、学校の姿を見据えながら、地域とともに教育活動を推進していく。



本の読み聞かせ



朝の交通安全指導



ボルダリング教室



持久走記録会



張碓神社例大祭